

北区の部屋だより

2026年 11月 第207号



刊行物登録番号 7-2-179

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和8年11月発行

北区 こぼれ話 第207回

陸軍被服本廠にあった保育所のはなし

明治の中頃から昭和の初めにかけて、区内には、弾丸を作る東京第一陸軍造兵廠（現中央図書館含む十条台1丁目一帯）や軍服・軍靴を製造する陸軍被服本廠（現赤羽台1、2丁目一帯）など、様々な陸軍の工場がありました。これらの工場には日々たくさんの工員が働きに来ていました。なかでも女性工員には主婦層が多かったことから、労働中に子どもを預けることができるよう、構内に保育所を設置していたところもありました。

陸軍被服本廠もそのひとつです。保育所設置の理由としては、出産や育児のために仕事を辞める女性工員が多く、そのたびに工場内の技術者の育成が無に帰してしまうことにありました。また、女性たちにとっても出産・育児という出費がかさむ時期に仕事をやめることは生計上の不安が募ることになります。そのため、被服本廠は1920年（大正9）に保育所を設置することとしました（※）。

では、実際に行われた保育はどのようなものだったのでしょうか。保育所では、生後1ヶ月を経過した乳児から6歳以下の幼児を対象として、母親（もしくは父親）は作業開始5分前までに子どもを預け、仕事が終わると引き取りに来ることになっていました。毎週1回健康診断を行ったり、毎月1回身体能力測定を行ったりと健康状態をこまめに確認し、異常があったときには保育所専属の軍医に診察しても

らうこともできました。また、子どもたちは外で体を動かすだけでなく、年齢に応じて会話や歌、礼儀作法を教わるなど、教育面も手厚かったようです。こうした施設は、被服本廠以外に東京第一陸軍造兵廠などにも設けられていました。

ちなみに、保育所の様子がわかる写真が陸軍被服本廠発行の『創立五十周年記念写真帖』（1935年）に載っています。こちらは「北区の部屋」の書架に並んでいますので、気になった方はぜひ見に来てください。

※出典 「保育所設置の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011332700、永存書類乙輯第2類第3冊 大正9年（防衛省防衛研究所）

【地域資料専門員 佐久間 乙葉】



陸軍被服本廠の保育所
陸軍被服本廠発行『創立五十周年記念写真帖』より

北区の部屋 今月の展示

「北区の部屋」所蔵資料でたどる 浮間東京府編入後 100 年の歩み

■展示期間 10月23日（金）～11月25日（水）

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

1926年（大正15）10月に浮間地域が埼玉県北足立郡横曽根村（現埼玉県川口市）から東京府北豊島郡岩淵町に編入して、今年で100年を迎えます。

今回の展示では、東京府編入100年を迎えた浮間地域が、編入後どのような歩みをたどったのか、「北区の部屋」所蔵写真や絵葉書などの資料を用いながら紹介していきます。



「浮間橋架設工事絵葉書」



赤レンガ棟の「見どころ」パネル展示

北区立中央図書館（赤レンガ図書館）が建っている場所はもと日本陸軍が使用していた東京砲兵工廠銃包製造所の跡地で、中央図書館は工場だった赤レンガ棟を保存するかたちで建てられています。館内には赤レンガ棟を紹介するパネルを常時展示しております。ぜひご覧ください。パネルは館内各所にあり、設置場所の案内も配布しております。また赤レンガ棟の歴史と見どころをまとめたパンフレットも置いています。



パネル



パンフレット



東京文化財ウィーク 2026 開催中！

東京都教育委員会では、毎年11月3日（文化の日）を中心に、都内全域の文化財の公開やさまざまなイベントを実施する『東京文化財ウィーク』を開催しています。北区では旧古河邸（大谷美術館）の特別公開や各種講座などを開催しています。詳しくは下記のホームページでご確認ください。（ガイドブックは配布していません）

<開催期間>

◇特別公開事業 ～11月3日（火・祝日） ◇企画事業 ～11月30日（月）

◆問い合わせ先：

東京都教育庁地域教育支援部管理課 文化財保護担当 ☎03-5320-6862

<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/week.html>

